

◆中2国語「古典の文章の展開に即して内容を捉える」問題 → ⑤(1)県49.8%、南部管内49.7%
 (2)県45.9%、南部管内45.7%

⑤ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。
 (……………線の左側は口語訳です。)

でんぶはた 田夫でんぶが畑はたを耕はたしている時
農夫が畑を耕している時 となり村
となり村

といふに、かのりんがう畠打ひんがうち小手招ひやくしやうきし、「あ、声が高い。低ひきう低ひきう。」
畑を耕す人が手招きをして 低く低く

といふ。「さては世にまれなる※からもの唐物のたねをも植まゆるにや。」と思ひ、
※からもの まいているのか

「心得こころえたり。」と近く寄りたれば、いかにもおのれが調子ていしをひきく、
わかった 非常に自分の声の調子を低くして

「大豆を蒔まく。鳩はとが聞きくほどに。」
開いているから

※唐物……外国から取り寄せた品
 (『醒睡笑』による。)

(1) 通とほりあはせ とありますが、この部分を「現代かなづかい」に直し、すべてひらがなで書きなさい。

(2) この話のおもしろさは、どのようなところにありますか。最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 自分のでしたことを、他人のせいにしてるところ。
 2 軽い気持ちで言った冗談が、現実になってしまったところ。
 3 大変なことが起こっているのに、全然気にしていないところ。
 4 本当はありえないはずのことを、真剣に心配しているところ。

◆指導上の改善ポイント

(1)の問題の正答は「とおとほりああわわせ」である。「語頭以外のハ行はワ行に変わる」という原則に則って回答させたい。誤答としては、次の①～③のパターンがある。

- ① 「とほりあわせ」「とおりはせ」→片方しか直せなかった回答例。
- ② 「とおりおうせ」→「あわせ」を「あうせ」と直し、「『ア段音+う』は『オ段音+う』に変わる」という原則に則って回答してしまった例。
- ③ 「とうりあって」等→『『現代かなづかい』に直しなさい』という指示を、「『現代語訳』に直しなさい」と捉えてしまった回答例。

(2)の問題の正答は4である。まず、古典は難しい、嫌いだ、と決めつけている生徒は、この話のおもしろさに気付きにくいことを強調したい。次に、この話において展開に即して内容を捉えるためには、古文中に出てくる会話文等の言動が「田夫」のものか、「隣郷の百姓」のものかを判断させていくことが大切である。

① 音読指導と並行した「現代仮名遣いに改めさせる」指導

(1)では、「現代仮名遣いに改める」と「現代語訳する」ことを混同した誤答が多かった。日常の授業において、「古典の文章を繰り返し音読して、そのリズムに気付かせるような音読指導」と並行した「現代仮名遣いに改めさせる指導」を丁寧に行うことが大切である。

② 古典に親しませる指導

(2)は古典の文章の展開に即して内容を捉えることができる力を問うものであるが、その基盤となるのが、古典の世界への親しみであり、興味・関心である。上記①の指導とともに、古典には様々な種類の作品(和歌、俳諧、物語、随筆、漢文、漢詩など)があることを、小学校から親しんできた様々な古典と結び付けることで知らせたい。

◇中2国語「集めた材料を分類するなどして整理する」問題

→ 県22.2% 南部管内16.7% (-5.5%)

② 図書委員長の島田さんは、新入生に向けて「図書室の利用の仕方」について説明をすることになりました。次のメモ①からメモ④は、そのために用意したものです。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【新入生への説明メモ】

メモ①〈図書の借り方〉

- ・図書の貸し出しは毎日昼休みと放課後
- ・図書の貸し出しは図書委員が行う
- ・一度に借りられるのは二冊まで

メモ②〈コンピュータの利用の仕方〉

- ・調べものなどにコンピュータが利用できる
- ・コンピュータを使って本の検索ができる
- ・コンピュータを使うには予約が必要

メモ③〈 A 〉

- ・学習コーナーの図書は貸し出し禁止
- ・図書室の中だけで利用すること
- ・授業で使う場合は持ち出してもよい

メモ④〈図書の購入希望の仕方〉

- ・図書室に置いてほしい本は希望できる
- ・図書購入希望用紙に必要なことを記入する
- ・記入した用紙はアンケートボックスに入れる

(1) 島田さんは、それぞれのメモに見出しをつけました。メモ③の A に入る見出しを十五字以内で考え、書きなさい。

◆指導上の改善ポイント

(1)の問題の正答は「学習コーナーの図書の利用の仕方」である。誤答としては「学習コーナーの利用の仕方」、「学習コーナーの図書の貸し出し」、「学習コーナーの図書の注意事項」等が考えられる。

① 「書く時間の設定」と「交流の時間の設定」

この問題を解くには、説明全体の構成と各段落(本問題ではメモ①～メモ④)の役割を捉えることができる力が必要となる。授業においては、各段落の役割を十分考えて文章を構成する力がつくような単元を計画したい。そこで、例えば「図表などを用いた説明や記録の文章を書く時間」を設定し、授業の終末には「書いたものを4人以下のグループで、じっくり読ませる交流の時間」を設けるなどの工夫が考えられる。見通しをもった単元計画の下、生徒同士が書いたものを交流することを楽しみにして、集中して書く時間を設定したい。

② **ねらい(指導事項)を明確にし、言語活動例を基にした言語活動の展開**

新学習指導要領では、小・中ともに、「指導事項を言語活動例を通して指導すること」を一層重視している。ねらい(指導事項)を明確にし、言語活動例を基にした言語活動の展開は、国語科授業の喫緊の課題である。以下に、本問題に関連した、第1学年の3領域における「身に付けさせたい指導事項」及び「言語活動例」をまとめた。

領域	身に付けさせたい指導事項	言語活動例
書くこと	集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。	図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。
読むこと	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。	文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。
話すこと・聞くこと	話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。	日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。